

From the Pulpit of the Japanese Baptist Church of North Texas
March 3, 2013

愛のかけはし

ヨハネ 3:16~21

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。

3:19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。

3:20 悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。

3:21 しかし、真理を行なう者は、光のほうに来る。その行ないが神にあってなされたことが明らかにされるためである。

ある牧師が、外国からアメリカに戻って来たとき、入国審査官との間にこんなやりとりがあったそうです。〈職業は？〉

「牧師です。」〈とても、牧師に見えませんね。あなたが牧師だったら、ヨハネ 3:16 を暗誦して言えるでしょう？〉「ええ、言えますよ。神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」〈素晴らしい！アメリカによくこそ、おかえりなさい。〉

「ヨハネ 3:16」は、牧師でなくても、すべてのクリスチャンが、暗誦していなければならない聖書の言葉です。ヨハネ 3:16

は、ヨハネの福音書のメッセージを、いいえ、聖書のすべてのメッセージを、ギュッと圧縮して詰め込んだような箇所です。宗教改革者マーチン・ルターは、これを「小さな聖書」と呼び、「もし、聖書の他の箇所が失われたとしても、この箇所があれば、人は救われる」と言いました。

私は、3月16日が近づくと、いつも「ヨハネ3:16」からメッセージをします。ヨハネ3:16は、私たちに救いの道をはっきりと教えていますから、いつでも、どこでもこの言葉を人々に語りたいのですが、とくに3月16日には、特に、まだ、この言葉を聞いたことのない人に伝えたいと思います。クリスチャンの方は、今から、誰に、どんなふうに、ヨハネ3:16を伝えるか、祈って、準備しててください。その準備のためにも、今朝は、スクリーンをご覧いただきながら、ヨハネ3:16が教える、救いの道をたどってみましょう。

一、神の愛

【スライド1】ヨハネ3:16が、第一に教えていることは、神が私たちが愛しておられるということです。聖書は、神がこの世界の創造者であること、神がきよく、正しいお方であること、など、神について多くのことを教えていますが、その中で、何よりも大切なのは、神が愛の神であるということです。聖書は、私たちに神の偉大さを教えて、神を恐ろしく思うようにさせるものでなく、私たちに神の愛を伝えて、私たちのうちに神への愛を育てるための書物です。聖書は神の愛を伝える書物、神から私たちへの「ラブレター」です。「神は…世を愛された。」このメッセージを持っているのは聖書だけです。

【スライド2】しかし、神がこんなに私たちが愛しておられるのに、この世界からは戦争はなくなりませんし、事故や病気、さまざまな不幸や悲しみがいっぱいです。神が私たちが愛しておられるのに、なぜ私たちは神の愛や平安を体験することがで

きないのでしょうか？

【スライド3】それは、私たちが神にたいして罪を犯したからです。

【スライド4】ローマ3：23に「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」とあります。ヨハネ3:19-20にも「光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」とあるとおりです。真理の光であるキリストに背を向けたなら、自分の目の前に見えるのは黒い影だけです。この世の悪は、罪から出ており、人間に責任があるので、

【スライド5】罪が神と私たちとを隔てているのです。

【スライド6】残念ながら、罪は、私たちに死とさばきをもたらします。

【スライド7】ローマ6：23に「罪から来る報酬は死です。」とあるとおりです。罪は、人間にとって一番やっかいな問題ですが、それは、神にとっても簡単な問題ではありません。もし、神がすべての罪人を滅ぼしてしまわれれば、神の私たちへの愛は消えてしまいます。もし、神が罪を見逃せば、それは神のきよさと正しさを損ない、世界は最悪の場所になります。神が人間をコントロールして罪を犯させないようにしたら、人間は自由な存在でなくなり、人間が人間でなくなってしまいます。

【スライド8】罪の問題を解決し、私たちが神のもとに連れ戻す道はあるのでしょうか？

二、キリストの救い

【スライド9】あります。それはイエス・キリストです。イエス・キリストは、私たちの罪を背負って、私たちにかわって

罪の罰を受けてくださったのです。

【スライド 10】 イエス・キリストは私たちの罪の身代わりとなって十字架で死ぬことによって、

【スライド 11】 私たちと神との「愛のかけはし」となってくださったのです。この「かけはし」は、決して人間の側からかけられたものではありません。人類は、知識を蓄え、良い行いを積み重ねて、神に到達しようとしてきましたが、それらは、すべて失敗してきました。キリストは神の御子でしたが、人となって生まれてくださいました。神の子であり、同時に人であるキリストだけが、神と人との「愛のかけはし」になることができるのです。

【スライド 12】 イエスは言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」（ヨハネ 14：6）私たちはイエス・キリストを通して、神のもとに行くことができます。

【ムービー】 2003年に、チェコのプラハで、ある短編映画が作られました。実際の映画はもっと長いのですが、それを短くしたのを見ましょう。この映画には、父ひとり、子ひとりの親子が登場します。父親は、男手ひとりで子どもを育ててきて、とても愛していました。彼は鉄道員で、湖にかかる可動橋を操作していました。船が通るときに橋をあげ、列車が通るときには橋を降ろすのです。

橋が上がっているときは、当然列車は信号待ちをしていなければなりません。ところが、列車が信号を無視してスピードをあげて橋に向かってきました。この鉄道員の8歳になる男の子がそれを見て、父親に知らせに行くのですが、誤って橋の中に落ちてしまいます。

そのまま橋を降ろせば、息子は機械に挟まれて死んでしまいます。しかし、橋を降ろさなかったら、列車に乗っている大勢の乗客が死んでしまいます。父親はどうすれば良いのでしょうか。どうしたのでしょうか。

父親は、橋を降ろしました。息子を犠牲にして大勢の乗客を救いました。神もまた、橋を降ろされました。ひとり子イエス・キリストを犠牲にしてこの世を救ってくださったのです。イエス・キリストは私たちが神に立ち返るための、神と世との文字通り、架け橋、ブリッジになってくださいました。

三、私たちの信仰

【スライド 13】では、イエス・キリストを通して神のもとに行くために、私たちは何をしたらよいのでしょうか？それは、難しいことではありません。

【スライド 14】イエス・キリストをあなたの救い主、また、主として、あなたの心と人生に受け入れることです。

【スライド 15】あなたは、もう、そのことをなさいましたか？今、イエス・キリストを受け入れることができない理由が何かあるのでしょうか？キリストの救いを受けるためには、いつか、どこかで、信仰の一步を踏み出さなくてはなりません。その一步がなければ、その後の信仰の歩みもないのです。

【スライド 16】あなたは、今、どこにいますか？ここですか？

【スライド 17】それともここのでしょうか？キリストは、私たちを招いておられます。

【スライド 18】キリストのことばに耳を傾けましょう。「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」（黙示録 3：20）キリストは「わたしは、彼とともに食事をし」とだけでなく「彼もわたしとともに食事をする」と仰いました。これは、神との交わりが一方方向のものでなく、双方向のものであることを表わしています。神が私たちを愛してくださるだけでなく、私たちも神を愛することができる者になれるのです。

神が私たちに豊かなものを与えてくださるだけでなく、私たちも神に自分をささげて仕えることができるようになるのです。

【スライド 19】キリストの招きに、こたえましょう。ローマ 10：9-10に「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」とあります。どのように口で告白すればよいのでしょうか。私は、初めて教会に行ったその夜、その教会のクリスチャンに導かれて、生まれてはじめて、まことの神さまに祈りました。私は、祈りによってイエス・キリストへの信仰を言い表わしました。あなたも、同じようになさいませんか。私が祈った祈りは、このような祈りでした。

【スライド 20】「神さま、私は罪人です。私には、あなたの赦しと救いが必要です。私はイエス・キリストが私の罪のため死なれたこと、私を救うため復活され、今も生きておられることを信じます。

【スライド 21】私は、イエス・キリストを私の救い主、また、主として、私の心と人生に受け入れます。私の罪を赦し、神の子どもとし、永遠の命を与え、私の生涯を導いてください。イエス・キリストのお名前によって祈ります。」

【スライド 22】この祈りを一緒に祈ってみませんか。私がすこしづつ、区切って祈りますので、それを繰り返して祈ってみてください。「神さま、私は罪人です。」「私には、あなたの赦しと救いが必要です。」「私はイエス・キリストが私の罪のため死なれたこと、」「私を救うため復活され、」「今も生きておられることを信じます。」

【スライド 23】「私は、イエス・キリストを私の救い主、」「また、主として、」「私の心と人生に受け入れます。」「私の罪を赦し、」「神の子どもとし、」「永遠の命を与え、」「私の生涯を導いてください。」「イエス・キリストのお名前

によって祈ります。」「アーメン。」

【スライド24】「アーメン」とは、「真実、そのとおりです」という意味です。「信仰」と「真実」とは、聖書では同じ言葉が使われています。神の真実を、私たちの真心で受け入れること、それが、信仰なのです。この祈りを、真心を込めて祈ることができましたか？

【スライド25】もし、そうなら、あなたは「神の子ども」です。「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」（ヨハネ1：12）と書かれているとおりです。

【スライド26】そして、あなたには「永遠のいのち」が与えられています。「罪から来る報酬は死です。しかし、神のくださる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」（ローマ6：23）とあるとおりです。

【スライド27】ヨハネ3：16は「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」と、信じる者に永遠のいのちを約束しています。

以前、フィリピンで客船が他の船と衝突する事故がありました。人々が避難する通路にひび割れができて、みんながそこを飛び越えるのが怖くて、ひび割れのところで立ち止まってしまいました。そのとき、ひとりのイギリス人の乗客がそのひび割れの上うつ伏せになり、「さあ、私の背中の上を歩いて渡りなさい」と言いました。人々は、彼の背中の上を歩いて無事に避難しました。このイギリス人が人々がその上を歩いて救われる「橋」になったように、イエス・キリストは、あの十字架にかかって、「さあ、私を歩いて、神のもとに行きなさい」と語りかけてくださっているのです。神と人との間の「愛のかけはし」となってくださったのです。救いの道は、神によって、神の愛によってそなえられた道です。この道を、「愛のかけは

し」を通して、神のもとに帰ろうではありませんか。

(祈り)

父なる神さま、ひとり子、イエス・キリストを私たちに与えてくださったあなたの愛を感謝します。私たちがまだ罪の中にいた時でさえ、あなたは私たちを愛し、キリストは、私たちのために命をささげてくださいました。あなたは、私たちが、その罪を赦されて、あなたのもとに帰ることができるため、あなたの側から、愛のかけはしをかけてくださいました。この愛を、この救いの道を、さらに多くの方々に分かち合うことのできる私たちとしてください。イエス・キリストの御名で祈ります。